

公共図書館による展示

gallery & history  
県内公共図書館の歩み

◆企画にあたって



埼玉県には平成 28 年度現在、220 館を超える公共図書館があります。そこで今年度のテーマ展示は、明治・大正期から現在に至るまでの著しい発展の過程を振り返るものとなりました。

◆運営・準備

記念講演講師である石田衣良氏の著作展示を含めて、実行委員 6 名で準備・運営にあたりました。

テーマ展示については、28 年 11 月に県内の公共図書館に、①図書館設立時と現在館の写真の提供、②ミニPRパネルの作成依頼、③レトログッズ（古い図書館用品）所有の情報提供、④展示会場での配布物の提供を呼びかけ、イベントへの協力を依頼するなどの準備を行いました。

◆当日の展示



公共図書館部会の展示スペースは、会場入

口の右側で、その片側を年表や写真及び関連するパネルのコーナー、もう一方をレトログッズのコーナーとしました。

① 年代別の県内公共図書館設置状況パネル

埼玉県内での図書館設置状況の変遷を紹介するために、明治・大正期から現在までの主な時点で、埼玉県地図に公共図書館のあるポイントを描いたパネルを作成しました。

各図書館の緯度・経度のデータを google map で表示したため、リアルなイメージで設置状況を再現できました。



② 県内公共図書館設立年表

『埼玉の公立図書館』（埼玉県図書館協会）に掲載された主な図書館の設立年の情報から、設立年順の大きな年表を作成しました。

①の図書館設置状況パネルと合わせて見ていただくことで、秩父や熊谷などの北部地域で早くから図書館の設置が始まり、その後、昭和・平成にかけて南部地域を中心に県西部、県東部まで広く急速に増加していったことが良く分かる展示になったかと思えます。

③ 図書館設立時と現在館の写真

20 自治体の図書館から、町制時代の旧館の写真や、同じ施設ながら周辺の様子の変り変わりが良く分かる写真などを提供していただきました。古い写真からは当時の図書館活動に思いを馳せることができました。

④ ミニPRパネル

10 自治体の図書館から集まった原稿から、タイトルを「zoom up ○○図書館」としてパネル化し展示しました。

内容は、図書館サービスの紹介、子ども読書活動推進に関するPRなどさまざまでしたが、どの図書館も積極的にサービスを展開している様子が伺える内容となっていました。

#### ⑤ レトログッズ（古い図書館用品）

残念ながら古い図書館用品を保存している図書館は少ないようで、展示品は県立図書館が所有しているものを中心に、熊谷市立図書館から提供していただいたものを加えました。



#### ＜展示したレトログッズ＞

- ・ ナトコ映写機（埼玉県立図書館）
- ・ 巡回文庫で使用した木箱（埼玉県立図書館）
- ・ 埼玉書籍館の利用券（埼玉県立図書館）
- ・ 目録カード・カードケース（熊谷市立図書館）

その時々サービスの一端を担ったグッズを見ることで、一時のタイムスリップを楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

#### ◆おわりに

今回の企画では、タイトルに相応しい展示内容にできるか少々不安もありました。そうした中、多くの県内公共図書館から御協力をいただき、実行委員が力を合わせたことで、何とか開催日を迎えることができました。

コーナーの配置やパネルの並べ方など、反省点も多くありましたので、次回はぜひ改善して実施したいと思います。

お忙しい中、ご協力いただきました県内公共図書館の皆様、ありがとうございました。次回は、ぜひ実行委員としてご参加を！

## 石田衣良氏著作展示

著作展示は、展示会場入口付近のスペースで行いました。

長机を三角形に並べて、机ごとにそれぞれを「エッセイ・インタビュー記事・その他」、「『池袋ウエストゲートパーク』シリーズ」、「長編小説・恋愛小説」のコーナーとしました。

著作本に添えたPOPは、石田氏が手掛けた帯文のキャッチコピーを転載したものと、実行委員のおすすめコメントを手書きしたものを作成しました。展示全体が華やかになるようカラフルなPOPにしたことで、来場者の目を引くことができたのではないかと思います。

「エッセイ・インタビュー記事・その他」のコーナーは、石田氏の書齋が白で統一されていることに合わせて白のクロスを敷き、趣味の音楽からイメージした音符の形の飾りを散りばめました。



展示作品は、エッセイを中心に、パーソナルな部分にも光をあてるため、過去に特集された雑誌や特集本、インタビュー記事が載っている雑誌なども加えました。

また、著作リストと高校図書館部会が作成した石田氏に関する「ライブラリー・ナビ」は、このコーナーで配布しました。

『池袋ウエストゲートパーク』シリーズのコーナーは、文字通り石田氏の代表作であるこのシリーズに特化したものとしました。

黄色のクロスと黒の差し色は、作品からイメージしたものです。



作品を並べてみると、97年のデビュー作でもあるこの作品から次々と新しいストーリーが生まれた経過が見て取れ、今でもこのシリーズが人気を維持していることが実感できました。

「長編小説・恋愛小説」のコーナーでは、「恋愛」からイメージしたピンク色のクロスを敷いて展示しました。

展示した作品には、『アキハバラ@DEEP』や『眠れぬ真珠』など、映画化やドラマ化などの原作になっているものも多く、石田氏の紡ぎ出す世界が多くの人を惹きつけていることがよく理解できる展示になったと思います。



著作展示のコーナーには、記念講演の後、石田氏にも足を運んでもらうことができました。短い時間ではありましたが、図書館が所蔵する初期の作品を手にとられて懐かしんだり、雑誌の特集などまでも集めて展示しているのに驚かれたりしていました。

来場された方にも、図書館ならではの展示を楽しんでいただけたのではないかと思います。

## ブックケア

=未来へつながる保存の技術=

本の治し方が知りたい！長く大切にするにはどうすればいいの？資料保存の技術を伝える展示も今年で6年目を迎えました。

保存の技術としては、修理の基本知識や技術、材料・道具について、解説パネルと実物の道具類を展示しました。あわせて様々な破損パターンの修理の過程を知る「本の修理ビフォー・アフター」や埼玉県立図書館で行っている資料保存の取組をご紹介します。

毎年人気の綴じ体験ワークショップにも、大勢の方が参加してくださいました。



### 【パネル展示】

<保存の技術> (知っておきたい基本)

#### ●修理の基本と材料

##### ①修理の基本

- ・何度でもやり直せること
- ・安全な材料を使う
- ・柔らかく軽く仕上げる

##### ②基本的な材料

和紙(楮)(極薄・薄・中厚・厚4種類)、  
でんぷん糊、混合糊(でんぷん糊2:白ボンド1)、白ボンド、麻糸

#### ●本の修理の道具

筆(こしのある平筆)、カッターナイフ、  
定規(金型30cm)、目打ち、製本針、締め板、  
重し(5kg、漬物石等)、櫛矢(目打叩き棒)

＜治す技術＞（修理の基本の技術）

●『本の修理きほんのき』その1～10・プラス1  
本を長く利用するために気をつけたいこと、  
道具や材料、基本的な修理方法を、コツやヒ  
ントをまじえてご紹介するチラシを配布しま  
した。今年は、もっと詳しく知りたい方に、  
「プラス1」が新登場です。



その1 本のなりたち

修理の第1歩。本の基本的な構造を解説。

その2 とりあつかい

「本の苦手」を知って正しく取り扱う。

その3 道具のこと

身近にある道具を修理に活用。

その4 材料のこと

化学的に安定した材料と配合の仕方。

その5 やぶれをなおす

和紙と糊でやぶれを修理する方法。

その6 かたちをなおす

水濡れ本、しわ、ノドの緩みを治す。

その7 ページがとれたら

様々な場面で役立つページとれの修理。

その8 ページがとれたら2

その7の応用編。

その9 表紙がはずれたら

片側のノドが切れて重症化した時に。

その10 ステップアップ

修理についてさらに知りたい時の情報源。

プラス1 平綴じ もっと知りたい！

三つ目綴じと四つ目綴じをさらに詳しく。

※『きほんのき』ウェブサイトにも掲載。

【<https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib/doc/hozon/index.html>】

＜本の修理 ビフォー・アフター＞

代表的な壊れの事例4例について、どんな  
流れで修理するのか過程をパネルで紹介。修  
理後の現物も並べ、前後で見比べていただく  
新コーナーです。



事例1 和紙と糊でやぶれを治す

事例2 和紙の足をつけてページをもどす

事例3 自立しない本ののどのゆるみを治す

事例4 絵本をリンク・ステッチで綴じ直す

＜埼玉県立図書館の資料保存＞

保存の基本について情報提供するウェブサ  
イトや、職員研修、県政出前講座「本の修理」  
など、埼玉県立図書館の取組を紹介しました。

【体験コーナー＜カンタン綴じ体験＞】

- 平綴じ（四つ目綴じ）★★★★ ★：難易度
- リンク・ステッチ ★★★★★



ゆっくりワークショップに参加される方が  
多く、修理に関するご質問に丁寧にお答えす  
ることができました。これを機に、図書館の  
活動や保存に興味をもってもらえたらと思  
います。次回もお楽しみに！